「当院における安全な手術への取り組み」

沼津市立病院　中央手術室
〇鈴木健太郎　沖島厚子　飯田輝美

行動目標S

1　正しい患者の正しい部位を手術する

2　チームは、患者を疼痛から守りながら、麻酔薬の投与による有害事象を防ぐことがわかっている方法を用いる

7　手術創内に器具やガーゼ（スポンジ）の不注意な遺残を防ぐ

8　全ての手術標本を確保し、きちんと確認する

1　正しい患者の正しい部位を手術する

- 入院時のリストバンド装着
- 病棟でのマーキングの実施
- 手術室入室時の氏名・左右等の確認
- 麻酔導入前のマーキングの確認
- 手術開始前のタイムアウトの実施

入院時のリストバンド装着

- 院内の医療安全指針に基づいて実施
- 患者氏名
- 生年月日
- 血液型
- バーコード

上記のものが印刷されたリストバンドを装着する

病棟でのマーキングの実施

- 院内の医療安全指針に基づいて実施
- 手術部位に対し、前日または当日回診時に執刀医師と病棟看護師が、患者本人に確認しながら、医師が患部または患側にマジックでマーキングを行う
- 看護師は手術患者申し送り書のマーキング医師名の覧に医師名を記入する

手術室入室時の氏名・左右等の確認

- 院内の医療安全指針に基づいて実施
- 患者にフルネームで名乗ってもらう
- 左右を含めた手術部位の確認を行う
- リストバンドのバーコードを、タッチリーダーで読み取りPC画面で確認する
- 他にも義歯・コンタクト・レンズ等の確認

麻酔導入前のマーキングの確認

- 院内の医療安全指針に基づいて実施
- 麻酔導入前に、麻酔担当医師・担当科医師・手術室看護師は、患者に患側部位の確認をすると共に、マーキングのチェックを行う

手術執刀前のタイムアウトの実施

- 院内の医療安全指針に基づいて実施
- 執刀前に、医師・看護師は一斉に手を止めて手術部位の確認作業のための「タイムアウト」を行う
- 「タイムアウト」の内容

  患者氏名

  病名・予定術式

- 入院時のリストバンド装着
- 病棟でのマーキング実施
- 手術室入室時の氏名・左右等の確認
- 麻酔導入前のマーキング確認
- 手術執刀前のタイムアウト実施

↓

1　正しい患者の正しい部位を手術する

※　患者にも参加してもらい、実施している

平成23年度　医療安全係による取り組み

- 年間目標：医療事故（ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ、ｱｸｼﾃﾞﾝﾄ）の発生を最小限にできる

１　スタッフへの注意喚起と事故発生の予防

２　情報の共有により事故発生を予防する

３　事故発生に対する対策の検討

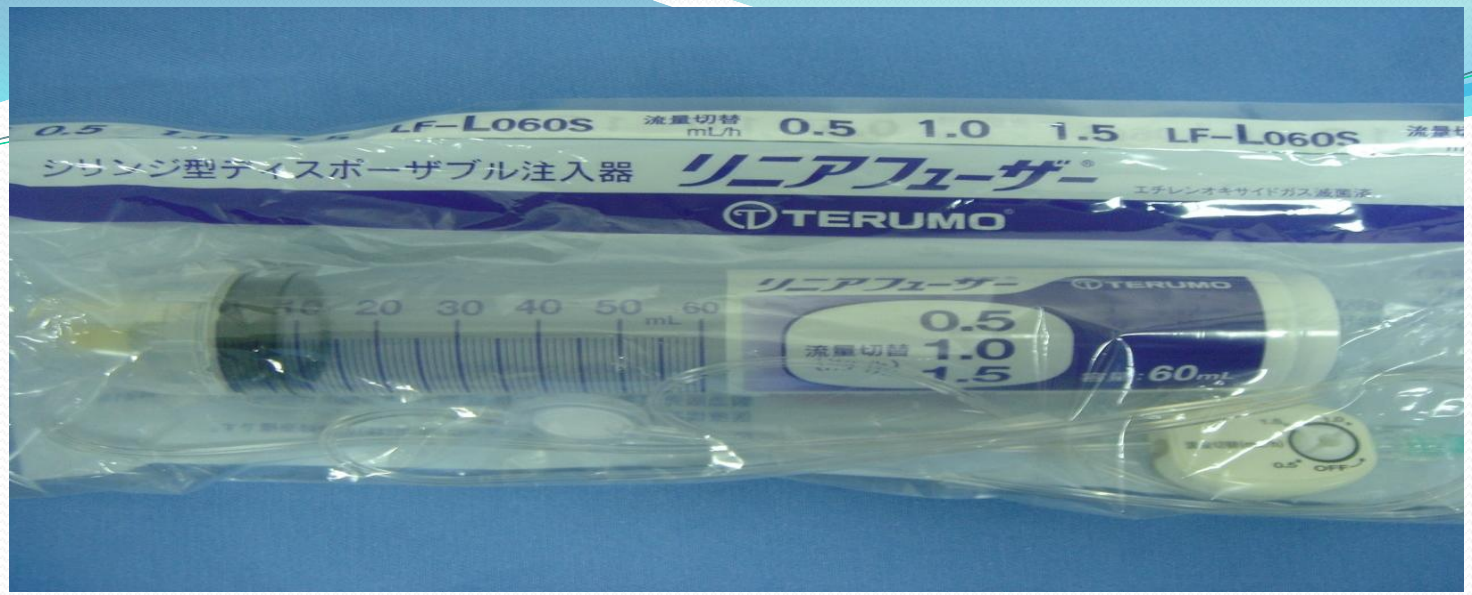
２　チームは、患者を疼痛から守りながら、麻酔薬の投与による有害事象を防ぐことがわかっている方法を用いる

症例
リニアフューザー（持続静脈内投与 ）の未実施

持続静脈内投与の適応症例が、2例続いており1例目では、麻酔科医師とリニアフューザーの取り扱いを確認。麻酔科医師が周知していたため、問題なく施行された。
2例目では、看護師は麻酔医師が周知してたため、確認をしなかった。帰室後、病棟で流量ダイヤルがoffになっていることが発覚した。

- 手術室看護師として、患者の疼痛について実践していること

1　リニアフューザー（持続静脈内投与 ）のリリース
　ダイアルの解除を麻酔科医師と共に確認
2　手術室退室時、麻酔記録と実際の流量確認
3　三方活栓の開栓確認



沼津市立病院 中央手術部 提供

- 手術室看護師として、麻酔薬の投与による有害事象について対処していること

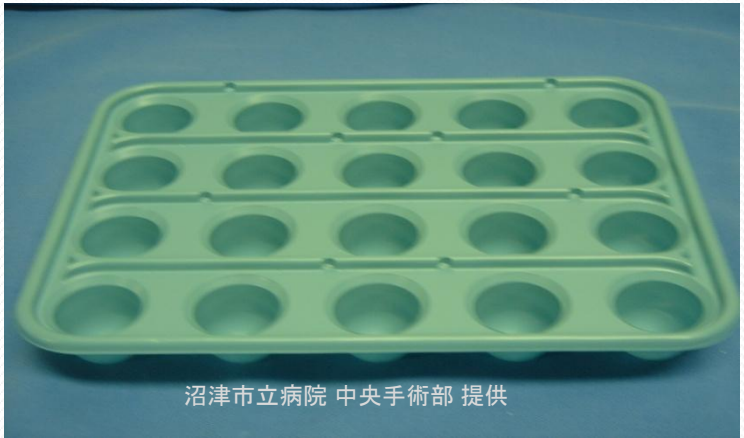
1　術前の情報収集で、既往歴・内服薬・アレルギーの確認

2　応援の麻酔科医師に報告

7　手術創内に器具やガーゼ（スポンジ）の不注意な遺残を防ぐ

- 院内の医療安全指針に基づいて実施
- 手術室看護師として、実践していること

- 卵ケース型ガーゼカウントホルダーを使用
- ガーゼ枚数はWチェックで確認



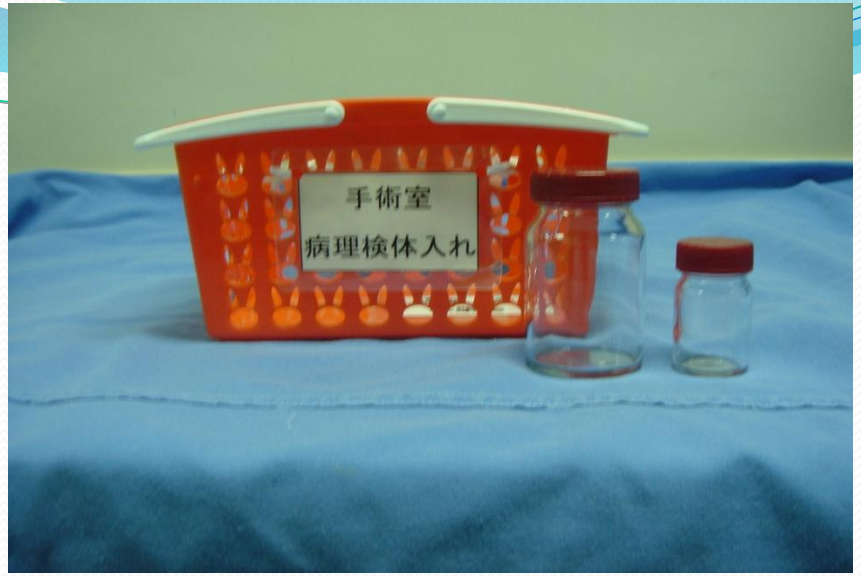
8　全ての手術標本を確保し、きちんと確認する

症例
病理検体（リンパ節）の渡し忘れ

患者退室後、外科医師より摘出したリンパ節がないことを告げられた。
捜索したところ、検体瓶は倉庫（検体瓶の片付け場所）から発見された。

- 手術室看護師として、実践していること

1　手術室内の標本瓶の定位置を決める
2　標本瓶には患者氏名を書いたシールを貼る
3　検体が入っている標本瓶の蓋に黄色シールを貼る
4　2･3の手順をふんだ標本瓶は検体かごに入れる
5　ホワイトボードに検体数を記載する



沼津市立病院 中央手術部 提供

沼津市立病院 中央手術部 提供